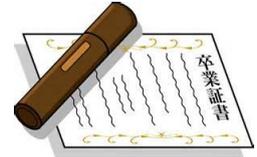


平成 28 年
3月 25 日発行
No. 14

コミュニティ・スクールだよりかいせい

開成町
コミュニティ・スクール
推進連絡委員会

文命中学校、開成幼稚園、開成小学校・開成南小学校と卒園式、卒業式が終わり、今日は幼稚園、小・中学校とも修了式を迎えました。多くの子どもたちの進学・進級の喜びで、学校がつつまれました。子どもたちや教職員の努力もさる事ながら、地域の皆さま方の温かい眼差しやお力添えの賜物と心より感謝しております。平成 28 年度も開成町の子どもたちを素晴らしい方向に導いていけるよう、地域の皆様のご協力・ご提言をよろしくお願いいたします。



1、学校運営協議会の 1 年間

前号（13 号）では、第 1 回の学校運営協議会のこと、8 月に行われた学校運営協議会合同会議のこと、学校運営への具体的参画とはどういうことか、CS でめざす姿は何かについて、お知らせしました。

各学校・園とも学校運営協議会は、年間 3 回行っています。第 1 回の会議のメインイベントは「学校運営方針の承認」です。すると、当然、第 3 回（3 学期に実施）の学校運営協議会は、1 回目の「承認」に対応して、「学校評価（学校運営の成果の検証）」ということになります。子どもたち自身による自分の成長・学校生活の評価（児童・生徒の自己評価）や職員自身による教育成果や取り組み状況の評価、保護者の目から見た学校の状況や指導に対する評価をベースとして、複数の評価担当で検討・考察を行い、その評価書をもとに次年度へ向けての意見を学校運営協議会において、色々な視点からいただきます。

では、2 学期に行われている第 2 回学校運営協議会は、何をしているの？という疑問を持たれたことと思います。

① 各校・園の第 2 回学校運営協議会の中身

開成幼稚園 11/12	開成小学校 11/16	開成南小学校 11/10	文命中学校 10/28
○園の取組みと園児の様子の報告 ○各部会毎の話し合い ・評価部 昨年のアンケート結果に関して等 ・支援部 ボランティアの取り組み内容等 ○部会報告会	○学校の状況報告 ・運動会について ・次年度の予定と予算 ・生活アンケート ・足柄上郡小学校連合体育大会 ・足柄上郡小学校音楽会 ・学校公開 ○ボランティアの実施状況	○学校の状況報告 行事、生活の様子 ○学校アンケート結果について職員の上半期の自己評価等について ○平成 27 年度前半の教育活動について ○平成 27 年度後半の教育活動について ○ボランティアの状況	○平成 28 年度学校予算の要望について ○学校の状況の報告 ・地区防災訓練、体験学習会の反省 ・生徒の表彰関係 ・生徒の状況について

各学校・園とも、運営協議会委員さんにお知らせしたいこと、ご意見を聞かせてほしいこと、一緒に考えてほしいことなどを議題にして取り組んでいます。もちろん、委員さんからの要望も議題として取り組みます。そうした中で、校長（学校）の思い、委員さん（地

域)の思いなどを自由に出し合い、互いの考えを深めあっていきます。

開成南小の運営協議会では、委員さんより、「昨今の会社勤めの様子、若者の食生活の様子などを見ると、食育や運動についての教育の大切さを痛感します。学校でも、「食育、運動はとても大切なこと」というスタンスで取り組んでほしいと思います。」という意見が提案され、話し合いがなされたそうです。また、みなみ地区の最近の急激な変化を踏まえて、子どもたちの安全・安心のためにも、何とか警察官常駐の交番設置を押し進めることはできないかという話し合いもなされ、その結果、教育委員会に意見書が提出されました。

開成小学校では、特別に配慮を必要とする子どもたちの育ちのことの校長の話をきっかけに、かいせい学級の子どもの様子、指導に関して話し合いがなされました。その中で、子どもたちの今の素晴らしい育ちを鈍らせてはならないという校長の熱い思いに共感して、運営協議会として、教育委員会に指導者配置への配慮を要望する嘆願書を提出することになりました。この嘆願書については、12月の教育委員会議で正式に取り扱われました。

両校のこれらの取り組みは、学校運営協議会の機能の一つである「学校や教育委員会に、学校運営に関する意見を述べることができる」を具現化したものと言えます。

②コミュニティ・スクール推進連絡委員会

こんな名前の会議があるということをご存じの方は少ないと思います。1園3校のコミュニティ・スクールの取組みの紹介や運営の問題点を出し合い、改善策についての話し合いを行う会議です。7月と2月に年2回、教育委員会事務局が主導して開いています。

平成27年度に話題として挙げたこと

- ① ボランティアをしてくださる方の活用をさらに進めていくことに関係して
 - ・ボランティアの募集、手配、お願い内容の調整などコーディネートする上での課題
 - ・ボランティアコーディネーターの必要性、重要性、適性
- ② ボランティアリストの共有化が図れたら素晴らしいということに関係して

各校が財産として持っているボランティアリストを開成町の幼・小・中学校の財産として活用できないだろうか。そして、その方々に活躍してもらうためには、どのようにコーディネートしたらよいか。
- ③ 校・園の学校運営協議会の連携・協働をより一層進めることに関係して

子どもたちの育ちに視点を当てた時の12年(3・6・3年)間を一貫してサポートしていくには、コミュニティ・スクールの視点からのアプローチはどうすべきか。

各校の教頭と担当の先生が参加して、学校での取り組み実態から、問題点や方向性について議論を深めています。ただ、年間2回、しかも短時間の会議であるため、結論が出るまでには時間がかかります。しかし、短兵急に結論を急ぐより、歩みはゆっくりでも、「学校の現実・実際」と「コミュニティ・スクールの理念やめざす方向」の融合をめざしながら、実際に生き生きと活動するシステムに作り上げていきたいと考えています。



2、 国の最近の情報

平成27年12月21日に中央教育審議会より「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」と題した70ページにも及ぶ答申（中教審第186号）が発表されました。”はじめに“の中に、この答申全体に流れている理念（考え）が述べられています。

「未来を創り出す子どもたちの成長のために、学校のみならず、地域住民や保護者等も含め、国民一人一人が教育の当事者となり、社会総掛かりでの教育の実現を図る。そのことを通じ、新たな地域社会を創り出し、生涯学習社会の実現を果たしていく。」

この理念に基づいて、“これからのコミュニティ・スクールの在り方”が提言されています。運営協議会制度の基本的方向性についてもいくつか挙げられています。本町で特に重要そうと思われる提言は次の2点です。

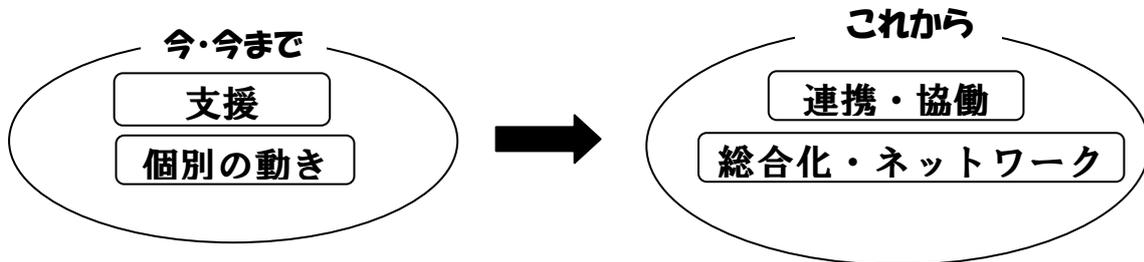
- ① 学校運営協議会は、学校を応援し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく役割を担う。
- ② 学校運営協議会は、学校支援に関する総合的な企画・立案を行い、学校と地域住民等との連携・協力を促進する。

当初、表立って重要視したコミュニティ・スクールの機能は、「学校のガバナンス機能の強化」でした。地域の子どもたちを育てていく方向性や方法を学校の論理、独りよがりの論理で強引に押し進めることがないように、住民・保護者の代表である学校運営協議会が学校運営基本方針を承認し、学校運営に関して学校・教育委員会に意見を言うことができるという形で、学校が独りよがりに陥らずに地域の意思も反映されていく仕組みとしたわけです。と同時に、地域の住民・保護者が積極的に学校を支援することによって、地域の特徴が学校運営の中に反映されるとともに、支援されることによって学校にゆとりが生まれ、本来、学校が持っているであろう“本来の学校機能”をフルに発揮できるだろうというねらいも副次的にありました。

さて、地域の方々や保護者が学校運営に参画しているという思いが持てる場面は、人によっても違うでしょうが、学校で、子どもたちを指導している先生と一緒に、子どもたちに接して、何か活動をしている時ではないでしょうか。自分も学校スタッフとして子どもたちに関わっているときなのではないかと思えます。子どもたちの育ちのために、学校運営のためにボランティアをしてみたいと考えていらっしゃる地域や保護者の方に活躍して

もらうためには、どのようにすれば良いのか、どんな仕組みが必要なのかという課題が生まれてきます。まさに、コミュニティ・スクール推進連絡委員会の話題そのものです。

答申では、この答えのヒントとして、「地域における学校との協働の体制の今後の方向性」と題して、次の流れを示しています。この流れは、前号でお知らせした支援活動のバージョンアップと同じです。



そして、答申には、協働体制の今後の方向性として、次のことが書かれています。

- ◆ 地域と学校がパートナーとして、共に子どもを育て、共に地域を創るという理念に立ち、地域の教育力を向上し、持続可能な地域社会をつくる必要がある。
- ◆ 地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく活動を「地域学校協働活動」として積極的に推進することが必要。
- ◆ 従来の学校支援地域本部などの活動をベースに、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を目指す新たな体制としての「地域学校協働本部」へ発展させていくことが必要。
- ◆ 地域学校協働本部には、①コーディネート機能 ②多様な活動（より多くの地域住民の参画） ③持続的な活動の3要素が必須。

言葉では、簡単そうですが、現実にはいろいろな問題に直面します。でも、子どもたちの育ちにとって、このシステムにどんな価値があるのかを考えると、避けて通ろうとすることはできないように思います。筆者のわずかな経験の中でも、地域や保護者の方々が学習や美化活動、支援活動に入ってくれたことで、子どもたちの心の中にさざ波が起きた事例をしばしば見ることができました。

運動会の時、雨で水びたしになった運動場整備を濡れながら頑張ってくれている地域の方々に、「ありがとうございます」と自分から素直に言えたたくさん子どもたち、その子どもたちの心をしっかり受け止めてくださった地域の方々、こんなちょっとしたことの積み重ねで、子どもたちは自分自身の良さに気づき、相手の良さに気づき、自己肯定感を高めていくのではないのでしょうか。と同時に、そんなことができる大人に憧れにも似た気持ちを持ち、将来、そんなことができる町民になっていくのではないのでしょうか。学習指導でも、学習支援でも、読み聞かせでも、環境づくりでも同じです。そして、子どもたちの心の中のさざ波と同じことが、活動する大人同士の間にも起きてくるのではないのでしょうか。

